□石沢　進（編）：**新潟県植物分布図集第12集**　128pp. 1991. 植物同好じねんじょ会. ¥3,000. 申込先：新潟市弁天橋通1－31－30　コーエイ印刷.

第10集までが一応完結したとき，本誌**65**：191に金井弘夫氏が，「地方の同好会としての大事業の完結」と讃辞を呈しておられる．各集100種を扱って1000種の分布図を完成されたところで，同じ精度を保つために速度を落し，11集からは1集25種ずつを扱い，さらに今の日本ではまだ困難な蘚苔類も取り上げ，県内の植物分布についての基礎資料の完成を目指し続けておられる．念のために，本書の構成を紹介すると，まず県内の分布を地図上に表示し，そこで取り上げた標本を，詳細データと共に列記し，参考に用いられた標本も挙げられる．新潟県内の当該種についての文献を取り上げ，分布上特記すべきことがノートされる．さらに，国内で分布図が作られているものがあれば，それも引用され，多くの種では，緯度別に整理された垂直分布図も整理される．ページが奇数で終る場合には，偶数ページには話題豊富な雑録が提供され，巻尾にも各種とは異った話題が盛られる．モノクロではあるが，登載された各種の生態写真も添えられる．

生物の多様性の維持について論議がかまびすしい．しかし，肝心の多様性についての基礎調査については，きれいごとが並べられることはあっても，汗をかく人は乏しい．そんな中で，新潟のこの記録は，50年にわたる現地調査を集成したものであり，出版だけでももう10年を超える継続的な努力が重ねられた．身の廻りに生きている生物への深い愛情があってはじめてまとまる事業である．県内の植物の動態を見るためにも，この基礎的な資料がものをいう．圧迫が加えられても，そこで起るだろう出来事については明確な見通しをもって語ることができる．自分達と同じ地域に共存する仲間達の動態である．友達として生きていくことへの執着が，毎年1冊ずつ積み上げられる分布図集に実っているのだろうか．いずれにしても，態度で示された植物達への友情が，彼らを殺害して恥じない人達へ強い抗議となっていることは確かである．目に見える効果がすぐに上がるというものではなかったとしても，生物の多様性についての関心がこれだけ高まりを見せてきたのも，世界の各地で地道に続けられてきた調査の成果にもとづくものであり，この分布図集は日本で数少ない貴重な資料であるといえよう．この調査がさらに継続されることを期待し，共同研究に携っておられる方々と，印刷，出版に貢献される方々の御努力に敬意を表させていただく．　（岩槻邦男）

□小林禧樹：**淡路島の植物誌**　217pp. 1992. 自然環境研究所. ¥2,300（送料は発行所負担）.

ほぼ10年にわたる著者の集中的な調査研究の成果である．原則として公的標本室に納められた標本に基づき，一部は今後収納見込みのものを含んでいる．野外での採集品を標本に作るとともに，各地の標本室での調査を並行して行うのは，並大抵の努力ではない．目録は植物名の下に産地名，採集者略号，採集番号が列記され，種類によっては簡単なノートがつけられている．こころみにいくつかの頁をサンプルに計算してみると，リストされた1,279種に対する標本数は約6,500点，そのうち著者の採集品は82%におよび．これだけでも著者の精進のほどが知れる．74頁までは植物相の概要や研究史に費やされ，202頁以降は調査地点一覧，文献表，和名索引である．一つ注文をつけると，地点一覧は市町村とともに経緯度を示してほしかった．他所者には市町村名だけではなかなか位置がわからないのである．頒布希望者は著者（〒673　明石市[redacted]　電話 [redacted]－[redacted]－[redacted]）に連絡されたい．　（金井弘夫）

□森江晃三：**都留自然散歩・植物**　51pp. 1991. 都留市教育委員会（事務局〒402　都留市上谷1－1－1）. ¥500（＋送料210，切手可）.

山梨県の東端，大月・富士吉田両市に挟まれた台地上に広がり，南西に富士山を望む都留市は，桂川とその支流の豊かな水と緑の自然に恵まれている．本書は永年この地の植物に親しんで来た著者（都留文科大学教授）が「都留自然シリーズ」の一巻として，同市の植物を紹介したものである．B6判でページ数も少ないが，140個の美しい原色写真と軽妙な説明によって誰でも「あっ，これか」とわかるに違いない．内容の幾つかを拾うと：

「都留の植物散歩」には有名な三ツ峠を始め，御正体山，桂川沿いから街の中などで見かける種類を，次に「季節の植物」では春・夏・秋～冬の花や果実，群落の様子，帰化植物，有毒植物，紅葉などについて次々と説明し，県や市指定の「天然記念物」，「自然観察のしかた」その他に及んでいる．（伊藤　洋）

□Yu Cheng-hong and Chen Ze-lian : **Leaf Architecture of the Woody Dicotyledons from Tropical and Subtropical China.** 414pp. 1991. Pergamon Press London. ￥20,700.

中国南部産の木本双子葉植物の葉脈パタンの図鑑で，96科656種類が記録されている．本文は科，属，種の葉脈パタンの記述に終始し，属単位で検索表がつけられているが，systematics に関する議論はない．283－403頁は図版，405－414頁は学名の索引である．葉のサンプルは主として標本室所蔵のおしば標本から得ており，栽培品も含まれている．葉脈パタンの研究は，わが国では古植物研究者によって進められており，棚井敏雅氏や植村和彦氏によって資料の蓄積が行われ，一部カタログが出版されているが，現世植物の分類学や形態学の研究者は身を入れていない．物質レベルの研究を「本質的」として重視する反動として，記述的，横断的研究を軽んじる雰囲気の中では，こういう研究はやり難いだろう．しかし葉脈も形質の一つだから，いつ迄も知らん顔をしてはいられまい．葉脈パタンの知識は，古植物学，分類・系統学，形態学に必要なだけではなく，民俗学，考古学，生薬学，犯罪捜査，商品開発などの分野でも有用性が高い．こうして中国植物の葉脈パタンの集成が進めば，わが国の研究の遅れが目立つことになるだろう．葉脈標本の保存には，プラスチックシートでラミネートする，いわゆるパウチ方式がとられている．この方法は製作が簡便で標本の扱いに神経を使わないで済むが，永続性や顕微鏡像の精細さには問題があるようだ．わが国では硬化プラスチックに封入してガラス板で挟む方式がとられており，精細な検鏡が可能で保存性もよいが，重量が大きいことやガラスという点で取り扱いに難点がありそうだ．とにかくわれわれにとって，よい刺激になる業績である．（金井弘夫）

□緑区・自然を守る会：**Yato 横浜・新治の自然誌** 80pp. 1992. 文一出版社. ￥2,000.

横浜市の一角の谷戸（山ふところの地形）に，わずかに残された雑木林の自然が失われないようにと活動を続けてきた人たちが，自ら得た資料，写真などを元に制作した．見開き2頁を一週間に見立て，レンゲソウの週とかクツワムシの週とかの季題をつけ四季の動植物や景観が美しくかつ詩的なカラー写真で記録され，おさえた調子の観察記がそえられている．巻末に花ごよみ，鳥ごよみ，短い解説文がある．たいへんよい本なので，おすすめしたい反面，この本によって新治の谷戸の美しさが知られ，訪れる人がふえることを心配しなければならない現状は憂欝である．知られれば盗掘者にねらわれ，訪問者の増加は土地の踏み固めと，群集対策を目的とした整備事業をもたらすだろう．いずれも著者達の意図に反する結末である．自然保護運動のむづかしさを，あらためて感ずる．（金井弘夫）

□岩槻邦男（編）：**日本の野生植物・シダ**　本文311pp. 図版196pp. 1992. 平凡社，東京. ￥19,500（税込）.

琉球・小笠原を含む日本全国に自生するシダ植物すべてを取扱った，と緒言に書かれているとおり630種にのぼるシダが解説されている．B5判のページ一ぱいに，大小4～6個合計970個の美事な原色写真が並び，取っ付きにくいシダもよくわかる．これは全国35氏（と協力者46名）のシダおよび写真の専門家の撮影によるという．シダの葉は似た種類間でも微妙な色の違いがあり，同一株から出た葉でさえ形や切れ込みに差があるので，葉一枚や単色線画ではわかりにくい場合もある．本書では数枚の葉を着けた株から数十枚の葉の群落までを，現地で撮っているので，変異の様子も立ち方や並び方など生態の癖も知ることができる．細かい特徴たとえば葉縁の切れ込み方，葉脈の分かれ方，胞子嚢群の形・着き方，包膜，葉柄の鱗片などは拡大写真を用意している．本文の方の解説は種ごとに：和名，学名とよく用いられる異名，